

パネルシアターの制作および演習を

保育者養成課程に取り入れる意義と教育効果について

The Significance and Educational Effects of Incorporating Panel Theater Production and Exercise in the Nursery Teacher Training Course

松家 麻記子

Makiko Matsuka

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード：パネルシアター，保育者養成，教育効果

Key words : Panel Theater, Nursery Teacher Training Course, Educational Effects

1. 研究目的

パネルシアターが日本で誕生して45年が経過し、保育の現場では、絵本や紙芝居と共に、児童文化財の一つとして取り入れられるようになった。また、保育者養成校でも保育技術のひとつとして取り入れる学校が増えてきてい中、その教育効果についての実証的な研究はほとんどないのが現状である。そこで、自身がこれまでに作家及び教員として取り組んできた内容の検証も含めて、保育者養成課程にパネルシアターを取り入れる意味と教育的効果を探ることを目的とする。

2. 研究実施内容

1. 児童文化財の視点からパネルシアターについての先行研究を概観し、パネルシアターならではの特性を表現技法や指導法の視点から検討する。
2. 現在の保育者養成校における授業での取り入れ方と指導内容（方法）の現状について、アンケートやインタビュー等の調査方法について検討する。
3. 現在行っている授業で学生を対象に調査を行い、パネルシアターの制作及び演習を通して習得できる技術や内容、教育効果について検証を行う。
4. パネルシアターの表現技法や教材としての特性を踏まえた上で、保育者養成課程にパネルシアターを取り入れる意義を考察し、教育効果を高める指導法の在り方の提案を試みる。

3. まとめと今後の課題

3-1. 先行研究の調査

パネルシアターに関する文献についての調査では、研究の内容により全160件の文献を、「歴史」「教材研究」「実践を通じた教材研究」「作品紹介」「ジャーナル・雑誌記事」「保育者養成」「人材育成/海外実践報告/指導法」の7種類に分類することができた。近年の動向としては、「教材研究」に関する文献が増加しており、パネルシアターの教材としての役割への期待の高まりを捉えることができた。また、近年は研究方法に変化が見られ、特に、実践を通じた教材研究では、単なる作品紹介や実践報告、筆者の主観的な観察記録は減少し、ビデオカメラ等を活用した記録やアンケート調査などの客観的データから実証を試みた研究が増えたことが分かった。

また、保育者養成における取り組みについては、これまでに整理されたものがなかったが、パネルシアター誕生から25年を経た1998年に松井による自身の授業実践の報告を機に、研究成果が発表されるようになった。この1998年は、幼稚園教育要領・保育所保育指針の改定の時期と重なっており、「保育内容（表現）」について、音楽表現、造形表現、身体表現の活動の枠を超えた総合的な内容であることが強調されるようになった時期でもあり、保育者養成校の授業内容の幅が広がった時期とも考えられる。パネルシアターが様々な授業科目で取り入れていることから、パネルシアターの総合的な表現ならではの活用の幅広さや魅力と共に、教育効果・意義の不明確さが示唆された。

研究の内容については、パネルシアターを取り入れることが珍しかった初期は「認知や活用に関する調査」や「技法の解説」が多く、次に「授業実践例の紹介」が増加し、近年は「教育効果」や「効果的な教育方法の検討」を試みたものが出現してきた。このことから、パネルシアターの技法や魅力がある程度認知され、表現技法を活かした教材開発や授業実践が試される時期が訪れていることが示唆された。しかし、それぞれの授業への取り入れ方や評価基準には、教育効果を図るための尺度など一般化できるものではなく、授業のプロセスにおけるどの要素が、保育者・教員を目指す上でどのように役立つのかについて、具体的には明らかにされていないのが現状である。

以上から、パネルシアターは技法としての認知自体は全国に広まりつつあるも、取り入れる目的や授業方法、評価方法に統一性がない現状が明らかになった。総合的な表現技法としての魅力や応答性など、パネルシアターならではの魅力を活用してためにも、今後は、保育者養成校でパネルシアターを取り入れる際の教育的意義や有効性を具体的に検証し、保育者としての資質向上や実践力の育成に役立つ指導方法（プロセス）、評価方法などを検討していくことが課題である。

3-2. 保育者養成校への現状調査

事前調査として、全国 650 の保育者養成校へ「パネルシアターの授業での取り入れ方と指導内容（方法）」に関するアンケートを送付した。現在、およそ 200 通の返信を受け取り、集計を進めている。

3-3. 授業内アンケートの実施

令和元年 9~12 月に実施した「図画工作I」授業において、教員・保育士を目指す大学 1 学生 105 名を対象にアンケート調査を行った。

調査内容は下記の 2 つの尺度を使用した。

①造形表現に対する態度測定尺度

造形表現に対する態度を測定するために、松家・守谷・松原（2018）の作成した「造形表現に対する態度測定尺度」による調査。本尺度は「表現に対する肯定感」「表現に対する自信のなさ」「感受性の強さ」の 3 因子計 21 項目からなる尺度である。

回答は「非常にあてはまる」（5 点）から「まったくあてはまらない」（1 点）の 5 件法で求めた。

②コミュニケーション・スキル尺度

コミュニケーションのスキルを測定するために、藤本・大坊(2007)の「コミュニケーション・スキル尺度」(ENDCOREs)を使用した。本尺度は、「自己統制」「表現力」「読解力」「自己主張」「他者受容」「関係調整」の 6 因子計 24 項目からなる尺度である。回答は「かなり得意」(7 点)から「かなり苦手」(1 点)の 7 件法で求めた。

現在データを集計中であり、次年度も引き続き対象や調査方法を検討しつつ調査を行う。

2-い、他の教材や表現技法との比較も含め、パネルシアターの制作及び演技方演習を通じた教育効果についての検証を行う。

今後は、技法の特性に関する他の児童文化財との比較、上記の調査結果を踏まえた上で、保育者養成課程にパネルシアターを取り入れる意義を考察し、教育効果を高める指導法の在り方の提案を試みる。また、多くの保育者養成校での実践に役立つ調査結果をまとめ、指導法の提案を行いたい。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1] 「パネルシアターに関する研究動向

—2019 年までの文献をもとに—

・著者名：松家 麻記子

・雑誌名：淑徳大学研究年報(教育学部)2019
(査読の有り・2020 年 3 月・現在印刷中)

③図書

[1] 「保育が広がる表現指導法」(成美堂出版)

著者名：松家まきこ

発行年：2019 年 3 月 127 頁

④その他 (パネルシアター作品)

[1] 「おとしたどんぐり」(アイ企画)

著者名：松家まきこ

発行年：2019 年 4 月

[2] 「まほうのでんしレンジ」(ひかりのくに)

著者名：松家まきこ

発行年：2019 年 8 月